

わたしが工夫する 「読み」の指導

三年上「三年とつげ」の実践から

金沢市立安原小学校教諭

新村 千鶴子

一 「読むこと」「読ませる」の授業を考える

読むことにおいて大切なことは、生涯にわたって豊かな読書生活の習慣をつけることだと思います。「二・三年」読書とつながった読みや言語活動例を取り入れた読みの授業と、多様な読みの授業を模索してきました。まず「読み」の指導の大切さを感じているところです。時間も削減され、今までどおりの詳細な読解の授業ではなく、「読む力」をつけていくにはどうすればよいのでしょうか。三年上の「三年とつげ」の教材を取り上げ、実践を交えて考えてみることにしました。

二 民話の楽しさを読み味わう

「三年とつげ」は朝鮮に伝わる民話です。トルトリの機知がおもしろく、語り口や言い伝えもリズムミカルで

しな味わつことができると思われる。

読む力を効率的につけていくためにも、このように考えながら読ませる工夫をしていくことが、今後重要になってくると思われま

2 声に出して民話のおもしろさを味わう

子どもたちの感想が集中するところは、言い伝えや「木のかげから聞こえた歌」、おじいさんが転んだときの様子など、リズムミカルでおもしろいところです。そこで、読み取ったり、想像した読みを声に出して読む活動を毎時間取り入れます。単元のめあてが民話を楽しんで読み紹介する活動であれば、「三年とつげ」の学習を生かしていくことが大切です。

以前の実践では、秋の児童集會を利用して、金沢に伝わる代表的な民話「おおかみを退治したこま犬」「法船寺のねずみ退治」「ゆづれいのあめ買い」「天狗さんの寺」を劇で紹介しました。児童文化協会の方をお招きして、「いもほり藤五郎」の民話を聞いたことも、自分たちの語りの参考になっていきました。この単元の導入では、金沢市のホームページ



おおかみを退治したこま犬

子どもたちの大好きなお話です。

読書の幅を広げることや、表現活動に発展することができ、多様な学習展開が可能です。場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読む力をつけるにも適した教材だと思われま

1 考えさせる読みを取り入れる

場面ごとの詳細な読解ではなく、効率的に読むには、子どもたちの感想が集中したところや焦点化したところ、また矛盾したところや比較したいところなど、考えさせて読む時間を設定していくことが大切ではないでしょうか。

例えば、

アとつげの美しい様子と言い伝えを読み取る

なだらかなとつげなのに、言い伝えがあるのはどうしてかを考えさせることで、美しいとつげの様子を豊かに読むことができる。「だれだつて」、「ため息の出るほど」、「美しいながめにつつとり」などの叙述をもとに美しいとつげの情景を読み取っていく。

イ言い伝えと、「木のかげから聞こえた歌」の違いを考える

二つの歌の違いを考える。「だれが」、「なんのために」など違いをまとめていく。違いが分かれば読み方まで変わってくるだろう。そうすることで想像しながら読む楽

「いいねつと金沢」

で金沢の代表的な民話に出会わせ、単元のめあてや目的意識をもたせていきました。

金沢市のホームページ「いいねつと金沢」で紹介されている金沢の民話
http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/minwa/index.html



金沢の代表的な民話が絵とお話で紹介しているので、楽しんで読むことができます。また、「語り」を聴くこともでき、民話の雰囲気味わうことができます。

3 金沢の民話や外国の民話を並行して読書

民話に親しませるために、公立図書館や学校図書館を利用して、金沢の民話や郷土の民話、外国の民話をたくさん借りて、民話コーナーを設けます。子どもたちに特に人気があったのは、『シナの五にんきょうだ』、『王さまと九人のきょうだい』(中国民話)、『クムカン山のトラたいじ』(朝鮮民話)、『ランパンパン』(インド民話)などのアジアの民話でした。民話に親しむことができ、心に残る学習ができました。

三 終わりに

情報化の時代、「読む力」は、これからますます重要になってきます。多様な活動を取り入れた学習展開を工夫するとともに、「考えさせる」読みの授業も効率的に組み込むことで、「読む力」をつけていきたいと思います。